



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

<講演会> 開会の辞 : 上智大学・関西学院大学連携 協定記念シンポジウム : 変革する大学 : IR・ポ ートフォリオ・クラウドの展開と可能性について

著者	曄道 佳明
雑誌名	関西学院大学高等教育研究
号	10
ページ	153-154
発行年	2020-03-25
URL	http://hdl.handle.net/10236/00029708

上智大学・関西学院大学 連携協定記念シンポジウム 変革する大学 ～IR・ポートフォリオ・クラウドの展開と可能性について～

日 時：2019年2月19日(火) 13:00～17:30

場 所：上智大学四谷キャンパス 6号館（ソフィアタワー）1階101教室

開 会 の 辞

曄 道 佳 明（上智大学 学長）

皆様こんにちは。本日、関西学院大学と本学との共催によりまして、この「変革する大学」と題するシンポジウムが開催できますことを本当にうれしく思います。

まず初めに、本日、基調講演をしていただきます文部科学省大臣官房審議官、玉上晃様におかれましては、年度末を控え、大変ご多用の時期にお時間を頂戴いたしましたことを深く感謝申し上げます。どうもありがとうございます。また、関西学院大学村田学長、豊原先生、江原先生を初めといたしまして、関西学院大学の皆様には準備の段階から多大なご協力、協働のもとに、本日の開催にこぎつけられたことを、これも深く感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

さて、本学と関西学院大学は昨年6月に連携協定を締結いたしました。よくメディアの方からは、どちらから言い出したのかという質問を受けることがありますが、本当に阿吽の呼吸で成立をした協定でして、その阿吽の呼吸が成立した1つの理由は、両大学がキリスト教精神に基づいて人の育成、あるいは社会貢献というところの次なる一手を模索しているという共通の認識があったことであろうと思います。同時に村田先生とお話をされていていつも感じますが、これは私も共有をさせていただいていることでもあります。社会の変化の中で、変革を余儀なくされる大学ではまずいだろうという問題意識の強さがこの両大学に強くあったことではないかと思います。ですので、村田学長と協定のお話を始めたときにも、単なる学生の交換、科目の提供という協働よりも、むしろ、大学の運営ということに関して、両大学の間でいろいろな情報交換が発展的に行えることに対する期待が大きかったと理解しています。

本日のシンポジウムは、IR、あるいは学修成果の可視化、さらにはクラウド、ICT を利用するような新しい教育の展開ということサブタイトルにして、いろいろな事例紹介の中から課題を見つけていこうという趣旨で企画させていただきました。変革を余儀なくされる大学ではなく、社会の変化にしっかり向き合って、かつ、変化が起こることはもう間違いないことでしょうから、高等教育も変化をすることが必要であろうと考えています。であれば、変化を主導する立場に立ちたいということも含めて、この両大学の事例を通じて課題提起、問題提起を皆様に提示

をして、一緒に考えるという機会になればと思っています。

本学と関西学院大学との協定のもとで、このシンポジウムの開催が実現したという認識は先ほどご紹介したとおりですが、ここにある IR、ポートフォリオ、あるいはクラウドの展開といったような課題に関しては、まだまだこれから発展期にあると思いますので、高等教育機関をはじめとした社会の中での問題意識の共有であるとか、あるいは課題解決に向けた議論というものがよりオープンな形で行われるべきであります。その後に、それをどうハンドリングしていくか、あるいは何を実現していくかということは、例えば、私たちは私立大学ですので、よりそこに個性の発揮という課題が新たに加わるかと思いますが、ただ、その問題意識というものをやはり社会の中でしっかり醸成をする、あるいは認識をする、そして、課題解決に向けた必要な何かがそこにあるということについて、私たちが共有の認識を持つという段階は非常に貴重であろうと考えています。

そういう意味で、本日のこのシンポジウムが多面的な課題認識に対する提供ができればと思いますし、ぜひ、ご参加の皆様からもいろいろなご意見が活発に出て、その中で、問題のありようを我々がどう対策するかというところに組み込めれば、このシンポジウムの意義になるであろうと思う次第です。

最後になりましたが、改めまして、本日ここにお集まりの皆様方に感謝を申し上げますと同時に、ぜひ議論に参加をしていただいて、新たな大学の改革、変革に対する一步になるということを期待して、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。